

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1190600013		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	庄和ケアセンターそよ風		
所在地	344-0117 埼玉県春日部市金崎675-2 Tel 048-718-3730		
自己評価作成日	平成25年3月6日	評価結果市町村受理日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成25年4月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

医療面でのサービスの向上を実現できた。2012年6月より、けやきの森クリニックによる訪問診療(希望者のみ)、同クリニックによる週一回の看護師訪問(全員)により、利用者様の健康管理を強化できた。  
さらにリハビリにも力を入れている。リハビリ専門職員2名(理学療法士、作業療法士)による、隔週一回ずつの、個別リハビリを実施している。入所時や病院から帰ってきた時に、リハビリ専門職による評価を行い、環境整備やリハビリ計画をたて、身体機能の維持管理、事故の防止に役立っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・「安全と自由の両立」を目指し、理念をもとに事業所全体としての介護力の向上に努められている。その一貫として、医師、看護師、理学療法士、作業療法士の定期的な訪問が実施され、正しいリハビリの方法や、利用者負担のかからない移乗・移動の方法が職員にも周知され、自立に向けた実践的な取り組みがなされている。  
・ご家族アンケートでも、「親身にお世話いただいて感謝しております」とのコメントに代表されるように、「職員は、ご家族の困っていること、不安、求めていること等の話をよく聞いてくれますか」や「ご家族やご本人のその時々状況や要望に合わせて、柔軟に対応してくれますか」などの項目で、高い評価が得られている。  
・目標達成計画の達成状況については、運営推進会議の充実を取り上げ、開催曜日を変え、参加者が広がり、議事録も市担当者へ届けられるなど、目標が達成されている。また、災害時の地域との協力体制作りにも取り組み、自治会との話し合いを持つなど、関係強化への取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	庄和ケアセンターそよ風の介護理念「守られた、快適な共同生活の中で、自分らしい自立した暮らしをサポートいたします」について話し合いを持ち、安全と自由を両立させるため、職員で力を尽くしていくことを確認した。	職員間で作られた独自の理念のもと、安全と自由を両立させる介護力を職員が身につけ、利用者の生活ペースを守るケアが実践されている。常に利用者にとって何が良いのかを話し合い、利用者の個性を尊重した取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年5月の春日部マラソンを観戦し、施設駐車場から旗を振って応援した。公民館で行われた消防署楽団の公演会に参加した。	地域のキッズダンスの子供たちや高校生をボランティアとして受け入れるなどの取り組みがなされている。また、施設開放日を設けて、近隣の住民の方が立ち寄りやすい環境を作るなど、日常的なつきあいがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	第3回共同防災訓練を実施した。消防署職員の参加も得て、具体的な応援依頼方法など、情報共有できた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を拡大して、協力施設(特養)の施設長や、商店会長、民生委員をお招きして、意見交換できた。	定期的に開催され、事業所の活動をDVDにまとめて紹介するなどして、参加者からも多くの意見をいただいている。また、開催曜日を工夫することで、参加者の幅が広がり、より充実した会議として、事業所の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所(高齢介護課、社会福祉課)や介護相談員と連絡を密にしている。事故や感染症発生の報告を迅速に行い、指示を受け、対処できた。	運営推進会議には、市の代表として地域包括支援センターの職員が参加され、感染症対策や介護保険の情報を得る機会となっている。また、介護相談員制度も受け入れ、利用者が職員に話しにくいことを傾聴し、サービスの向上につなげられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症対応施設であるグループホームでは、虐待や身体拘束が起こりやすいことを理解し、介護の力で安全に過ごしやすい生活していただけるように話し合いを持った、	自由を束縛することなく、安全を確保しながら、どうすれば利用者の自由な意志で動いてもらえるかを話し合い、身体拘束に頼らないケアが実践されている。4点柵使用のケースもあるが、常に見直しを行うなど、拘束の弊害も理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が悩みを一人で抱え込むことが無いように、カンファや全体会議等で、介護方法や利用者対応について、話し合える環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、行っておらず、今後調査していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に契約書・重要事項説明書を十分時間を取りながら説明して、ご家族の納得を図っています。気軽に疑問を聞けるように、促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を毎月受け入れており、利用者の要望を聞く機会を持っている。面会や運営推進会議で、ご家族から要望をお聞きして、運営に活かしている。	利用者とは日頃の関わりや、介護相談員の受け入れなどで、家族とは面会時や運営推進会議などで傾聴されている。医療サービスに対して、家族から意見をいただき、不安の解消のため、看護師の定期的な訪問を始めるなどの効果も見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事担当、発注担当を中心に、意見、提案をセンター長、管理者と話し合い、施設運営に反映させている。	定例会議や日々の申し送り時、申し送りノートにて、意見・提案が聴きとられている。話しやすい環境が整えられ、職員間のコミュニケーションも良く、実際に職員の意見をもとに、利用者の外食の機会を増やすなど、事業所の運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し職員と一対一で面談する機会を設け、その職員の希望を踏まえての目標設定をして、スキルアップややりがいを有てるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談の時に、自分で目標を立てさせてそれを達成できるよう促している。資格習得を奨励・応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	春日部市内のグループホームで「意見交換会」を定期的に行い、情報共有や行政への要望を伝える仕組みを作った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活履歴を聴取して、要望をお聞きして、その方がリラックスして、早く施設に慣れ、他の利用者と関わりが持てるように、働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族とゆっくり時間を掛けて話をして、困っている事などの相談できる関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実地調査を行い、ご本人の状態把握に努め、グループホームに適した入居対象者であるかを十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	壁飾り作りや自室の掃除やゴミだし、草取りなど自分でできることは自分で行なっていたくことで、自尊心を持って生活できるように援助している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が途絶えている家族に無理のない範囲で面会を促し、施設の行事に招くなどして、本人と家族の関係が良好なものであるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所の関係を途切れないように、知人友人の面会受け入れを積極的に行っている。	友人、知人が来訪された時は、職員も話に入るなどして、また来ていただけるよう努められ、利用者が大切にしてきた関係が途切れないよう支援されている。また、家族の協力を得ながら、馴染みの美容室やお墓参りなどにも出かけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、職員が間に入り、利用者様同士が生活を共にし支えあう関係が作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去のご家族様にも運営推進会議の委員等に参加していただき、各種行事のお便りを差し上げて、関係が途切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファでは、利用者の日頃の要望(外出を多くしたいなど)を実現できるように、話し合いを持っている。要望が表現できない利用者にも、なるべく平等にサービスが行われるように心がけている。	利用者一人ひとりと接する機会を多く持ち、居室で1対1で話すなどの取り組みがなされている。普段あまり話をしない利用者の思いや意向が後回しにならないよう努められ、買い物や外出の要望などにも応えられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際、担当ケアマネ、ご本人、ご家族に生活暦、なじみの暮らし、生活環境、経過などを尋ねて、本人の全体的把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に注意して、気づいた事は職員間で共有する為にカンファレンスし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とご本人の現状にそくした介護計画の話し合いをして、ご家族の要望も取り入れたケアがなされるように計画している。	利用者・家族の要望のほか、医師、看護師、理学療法士などの指示を取り入れて、現状に即した介護計画が作成されている。自立に向けた生活動作などの写真を活用し、職員全員が同じケアを提供できるよう、具体的な目標設定もなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の支援経過に日々の様子、ケアの実践を記録し情報の共有に努めて、良いケアのあり方は皆で手本とし、より良い介護が提供できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応してリハビリ、外食レク等新しいサービスを導入し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アシスト春日部にボランティアを派遣してもらえよう依頼し、行事等に協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の愛和病院、他医療機関と連携を図り受診の際には職員が付き添い、適切な医療を受けられるよう支援している。けやきの森クリニックと契約をし、希望者には訪問診療を提供できるようになった。	往診医、訪問看護が導入され、医療面でのサービスを手厚くすることで、通院の負担軽減にもつながっている。また、かかりつけ医への受診時には、必要な情報提供も行われ、受診後の医師からの指示もうかがうなど情報の共有も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算により、すべての利用者に週一回の訪問看護がサービス提供できるようになった。医療上の相談や病気の早期対応に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて入院先の治療計画のカンファに参加したり、看護サマリー計画、介護記録の情報交換をするなど連携を深めている。ご利用様が入院した際職員が頻繁に、面会し安心して過ごせるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と相談を持ち、ご家族のつらい気持ちに共感しつつ、重度終末の方針を定め、それを病院関係者、職員で共有し、支援する体制を作っている。	入居開始時から「不安や心配ごとは気軽に話してください」と声かけが行われ、利用者の意志や家族の希望の理解に努められている。医師、看護師からのアドバイスも受け、できる限り要望に沿った対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の相談窓口として「けやきの森クリニック」を指定し、救急車の必要性など、医療上の判断を受けることができるようになり、職員の負担軽減にはかっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、避難訓練を実施して、不測の事態に備えた準備をしている。緊急連絡網を作り直し、施設近隣の職員を中心に、早期に施設に駆けつけることができるように、体制を整えている。	様々な場面を想定した具体的な訓練が行われ、避難経路、避難方法、職員連絡網などが確認され、課題の把握と改善にも努められている。備蓄の整備も実施され、地域の避難所としての受け入れ態勢も整えられている。	災害発生時は地域住民の協力は不可欠であり、これまで、地域との合同避難訓練を行った実績もあるので、再度実施を呼び掛け、協力体制や協力者の確保に努められる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスを定期的に行い、利用者の個性の把握に勤め、自尊心を持って生活できるよう配慮した支援を行っている。	居室は個々のパーソナルスペースと考え、入室時にはクックや声かけを行い、プライバシーが保たれるよう努められている。また、利用者の人格の尊重と個人情報の責任ある取り扱い、排泄、入浴時の羞恥心への配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から「困った事があれば何でもいってくださいね」と声掛けして、要望を気軽に相談できる関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、それを強制することなく、自分のペースを優先して生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	雑祭りでは、女性はお雛様、男はお内裏様の装束で写真を撮った。日頃から服装の乱れがあれば、その方に失礼のないよう気をつけながら、声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、食事の準備や片付けを手伝っていただき、職員と一緒に会話を楽しみながら、食事をいただいている。	決められたメニュー以外に、季節の果物やおいしいパンなど、利用者の好みにできるだけ対応した支援が行われている。また、職員と一緒に準備や後片付けを行う光景や、外食日が企画されるなど、様々な工夫が図られている。	食事については、家族にも関心の高いことであり、事業所の食事支援の取り組みをアピールするため、家族に献立表を送付したり、試食会を行うなどして、更に信頼を深められる取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録をつけ、食事量・水分量の少ない方には個別の食事や、ゼリー・ヤクルトを提供して、補食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者を洗面台に誘導し口腔ケアを行なっている。職員ができない部分については、訪問歯科に治療と口腔ケアをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態に合わせて、リハビリパンツの使用や、定時トイレ誘導、ポータブルトイレ設置など、排泄の自立に向けて、支援している。	介護計画の中で「立位の保持による排泄の自立」を目標に掲げ、できる限りトイレへの誘導が行われている。理学療法士による筋力の衰え防止のプログラム作りや、トイレでの安全な移乗方法のアドバイスを受け、自立支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、水分を多めに取っていただいたり、運動してもらったり、自然な排便が行えるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は15時から18時を予定しているが、それ以外でも希望があったり、介護が必要な場合は、自由に入浴していただけるよう対応している。	体調を考慮しながら、2日に1度のペースで、夕食前に入浴いただいている。自立されている利用者には見守りで対応され、また、昔話をしたり、仲の良い利用者同士が誘いあって入浴されるなど、楽しんでいただける支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前使っていた寝具を持ち込んでいただき、プライバシーの守られた個室で安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による副作用症状などを見落とさないように、情報を職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご希望のレクリエーションを取り入れたり、家事の手伝いをさせていただいたり、施設の中で自分の役割を感じられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、季節の花を見にドライブに出かけたり、買い物に同行したり、外出の機会を多くしている。	職員サイトの思い込みによる外出ではなく、利用者が行きたいところを聴き、イチゴ狩り、ウインドショッピングやドライブなど様々な外出を楽しまれている。また、近所への散歩なども、希望に応じて日常的に職員と一緒に出かけられている。	日常的な外出の様子は、家族の目に触れることは少ないので、散歩や外気浴の様子を写真に撮り、家族に知らせることで、事業所の取り組みをアピールし、更に信頼を深められる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は買い物にスーパーに出かけ、自分の好きな物を買物して楽しめる支援をしている。お金の管理は、施設で預かりの方、個人管理の方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など季節の便りや、希望があれば携帯電話の持込や、施設電話を使っていたくなど、家族との絆が感じられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作業療法士の助言をもとに季節の飾りを利用者と共に作り、壁に飾る事で季節感を感じていただいている。掃除に力を入れて、不快な臭いや汚れを除去して、心地よく生活できる環境を作っている。	行事の写真や季節の花、作業療法士の提案でリハビリを兼ねて利用者が作成した季節の飾りなどを掲示し、四季が感じられるよう工夫がなされている。衛生面やにおいにも配慮され、朝食後利用者と職員と一緒に掃除をするなど、清潔で居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいときは居室に戻ったり、おしゃべりしたい時はリビングに出たり、自由に過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品を出来るだけ持ち込んでいただき、居室を今までの環境と似たものにする事で、心地よく暮らせるパーソナル空間を作っていただいている。	家族の写真やテーブルセットなどの家具、趣味の書道の道具などが持ち込まれ、利用者が自由に居心地良く過ごされるよう工夫がなされている。家族と協力し、今までの生活環境が再現されるよう努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー化しており、手すり、エレベータ、床段差の解消など、安全に自立した生活が送れるように設計されている。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名: 庄和ケアセンターそよ風

作成日: 平成 25年 5月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	施設の取り組みとして食の改善に取り組んでいるが、家族にそのことがうまく伝わっていない。	食については家族の関心の高いことであり、情報発信を増やしていく。	月一回、メニュー紹介として、ある一日の食事写真を送付する。家族参加行事での試食会を行う。	1ヶ月
2	48	日常的な外出の様子は家族の目に触れることは少ない。	外出の機会を増やすとともに、外出困難な方には駐車場にて日光浴を行う。	職員は日常的な外出の様子を写真に撮り、それを家族便りと一緒に送付する。	3ヶ月
3	35	災害発生時に地域住民の協力を得られる体制を作っているが、まだ未整備。	いざというときに、地域住民の協力が得られること。	はなわ団地との合同防災訓練を実施し、庄和消防署の指導を得る。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。